

利用者送迎の

運転状況管理

スマートドライブ

スマートドライブ社は、利用者を送迎するドライバーの運転状況を管理するシステムを提供している。

機器をシガーソケットに装着するだけで、ハンドリングや急な減速などを点数化し、ほかの運転者との比較ができる。高齢のドライバーが社会問題となる

中、同社には福祉施設からの問い合わせも増えているという。

機器の内部には、同社が独自に開発した高性能センサーを搭載する。加速や減速、左右のハンドリング操作を感知し、点数化する。サイズは12センチ×6センチ。シガーソケットに差すだけで、工事は不要だ。

危険な運転操作があった場合は、アラートを通知。事故が起こりやすい場所の共有もできる。このほか、走行

経路や距離、時間など運転日報のデータも自動で出力される。

料金は、デバイスの種類や設置台数などによって異なるが、1社当たりの平均は数十万円程度だという。

同社広報は、「利用者の送迎を担当するドライバーの中には高齢の方も少なくなく、事故防止は福祉施設にとって大きな課題。運転の点数化による事故の抑止効果も大きい」と話す。

(鮫島隆紘)